

社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

1999年(平成11年)3月31日

第29号

発行

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

編集委員会

〒560-0881 豊中市中桜塚2-28-7 TEL(6848)1000

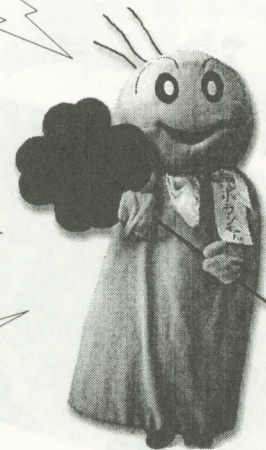
決定！！ ボランちゃん

1998年11月3日、ヒューマンカーニバルで決定した豊中のボランティアイメージキャラクター。その子が大阪北生協ともしびボランティアグループ「おもちゃ箱」と市社協登録ボランティアグループ「小さな手」の方々の協力でこんなすてきな着ぐるみになりました。また、第6回豊中ボランティアフェスティバルでは市民投票により、名前が「ボランちゃん」に決定。皆さん、かわいがってくださいね！



ボランちゃんです。
よろしくね！！

大変身！



ボランティアグループあれこれ

大阪北生協ともしびボランティアグループ 「おもちゃ箱」

障害児のための布絵本、遊具作りをしている「おもちゃ箱」は「ボランちゃん」の大きな頭と手に持っているクローバーを製作しました。着ぐるみを作るのはグループ結成以来(17年余)初めてのことで、大冒険でした。初め設計図？どおり二頭身、頭の直径1mに挑戦し、すぐ挫折しました。活動している部屋の入り口の幅が75cmだったからです。最後まで頭の重さと固定に悩みながら、今回、「小さな手」と共にボランちゃんを難産したことはとても意義深く、又、可愛い「ボランちゃんのプリクラ」と共に楽しい思い出になりました。

市社協登録ボランティアグループ「小さな手」

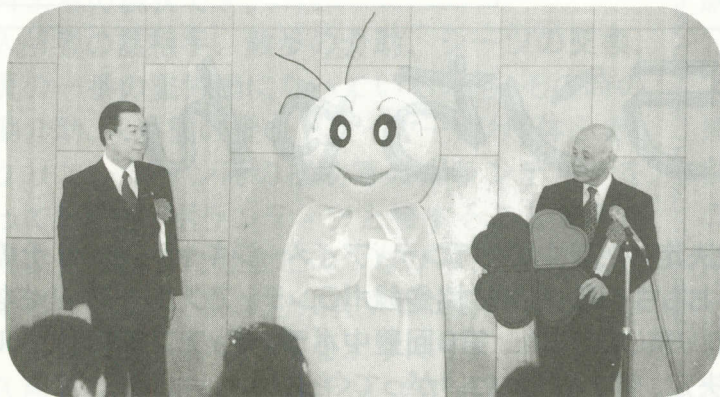
小さな手は、豊中市社会福祉協議会登録ボランティアグループの一つです。私達は介護者家族の会を支援する目的で集まりました。その活動の一つとして介護用品を作っています。今はその部分が大きくなり、色々とニーズに合わせて、寝間着のリフォームや床ずれマット等を工夫しながら仲間と共に楽しく作っています。

最近の楽しかったことは、イメージキャラクター『ボランちゃん』の製作です。胴体部分を手がけました。七名のチームを作り、型紙をはじめ何をすることも初めてなので、大きさを考えるのに段ボールの箱に入ったり、接着剤の臭いと戦いながら何とか型にしました。布を買いに「おもちゃ箱」の皆さんと一日本町をうろうろしたり、と苦労も多かったのですが、可愛い『ボランちゃん』の誕生となりました。他のグループの方との交流が深くできたこともうれしいことでした。(M. Y)

第6回豊中ボランテ

1999年2月21日(日)、豊中市立市民会館にて第6回豊中ボランティアフェスティバル
今年は例年のステージ発表、展示・即売コーナーに加え、ボランティアイメージキャラクター名

～ステージでは～



市長・議長がイメージキャラクターと共に登場！



オープニングは障害者福祉
作業所「たんぽぽ」による
「踊ろう ボンダンス」



豊島北校区のみなさんによる
コーラス「コールブルーメ」



少路小学校6年生による手話歌

子どもたちの感想文より

私は手話で歌を練習するなんてできるかな…と、初めは不安でした。でも何回も練習しているうちにだんだんできてきて、自信もでてきました。そして、先生がもってきたビデオを見た後は、手話に気持ちを込めてやろうと思ってやりました。ボランティアフェスティバルの会場は、みんな楽しそうに手話で会話したりしていました。それと、周りにはあってあったポスターを見ていて、豊中市にはこんなにたくさんの人がボランティアに参加してくれているなんて、すごいなあと思いました。『おくりもの』と『マイバラード』を、私は思いっきり気持ちを込めてやりました。すると周りのおばあちゃんたちもまねをして、笑いながら楽しそうにしてくれているのを見て、私はすごくうれしかったです。これまで老人ホームへ行ったり、いろいろな活動をしてきたけど、自分がしたことをみんなが喜んでくれるのはとても気持ち良かったし、うれしかったです。大人になってもボランティア活動は続けていきたいです。

語りあおう！

イアフェスティバル

が開催されました。当日は、天気にも恵まれ、延べ1000人もの方々が訪れました。称投票、市長・議長のパフォーマンスなど盛りだくさんの内容となりました。

～展示・即売・体験コーナーでは～



階段昇降車の体験中！！



なかまの店も大盛況

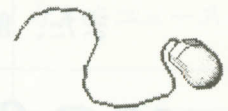


ボランティアはいま

昨年9月、ようやくボランティアセンターのホームページが完成しました。それを機に、ホームページ作りに携わった8名を中心に10番目の市社協登録ボランティアグループ「アクセス」を結成しました。今回の「ボランティアはいま」はできたてほやほやの「アクセス」で活動している方々の声を紹介します。

その名も「アクセス」

昨年9月、市社協ボランティアセンターのホームページが立ち上がりました。その時の参加者を中心にボランティアグループ「アクセス」が誕生し、新鮮で正確な情報を提供できるよう活動に励んでいます。開設以降わずか半年で1300件を越えるアクセス件数からもボランティアに対する関心の深さが伺えます。時間的なこと、活動内容などボランティアへの疑問や不安がおありの方は気軽にホームページを開いてみませんか？ いろいろな活動を通して多くの人たちが少しずつ関わっている様子をご覧いただけることでしょう。このホームページが無理なく自然にボランティア活動に関わってゆけるきっかけとなれば、とてもうれしいことだと思います。(T.D)



阪神大震災の五日後、車椅子をレンタルして西宮の避難所に祖母を迎えに行った帰り道のことです。瓦礫と人の列に立ち往生していると、後ろのほうから「車椅子通るよ！」と大声が聞こえると同時にずっと前の方まで道が開けました。その後、電車の乗降時にも何処からともなく、援助の手を差し伸べていただき本当に助かりました。

あの時お腹にいた下の子が、今年は幼稚園。少し時間に余裕が見えるようになったので、「できることから」と思い立ち「アクセス」でホームページ作りのお手伝いをするようになりました。ベテランボランティアの皆さんに囲まれて、楽しく作業しています。今後も少しずつ、活動の幅を広げていければと思っています。(N.O)